



特集

全国過疎問題シンポジウム2024 in やまなし

やまなし

自治の風

Yamanashi JICHI no KAZE
Vol.57 March.2025

contents

- 市町村長リレー
- 苦言提言
- 地域シンクタンク
- 市町村の元気印
- 地域おこし協力隊の活動



machijim on

お問い合わせ先

荊崎市商工観光課 商工観光担当

住所 山梨県荊崎市水神1丁目3番1号

電話 0551-45-9158

HPアドレス <https://www.city.nirasaki.lg.jp/>



シリーズ ま・ち・自・慢

Nirasaki-City 荊崎市

リノベーションがまちづくりの可能性を広げる

荊崎駅前のシンボリックビル「アメリカヤ」の再生をきっかけに、カフェやピザ、洋菓子、ジェラート、パフエ、ゲストハウスなど様々なお店が空き店舗をリノベーションして開業し、県内外から多くの人が集まるリノベタウンとして新たな賑わいをみせています。

リノベーションによるまちづくりは、遊休不動産の解消と商業振興、地域コミュニティの活性化に大きく寄与することから、市では店舗改修費等に係る補助制度の拡充に加え、商工会が民間事業者と協力して実施する起業や移住を検討している方を対象とした空き店舗ツアーを支援してまいりました。

こうした施策により、昨年度は16件、本年度も23件（1月末時点）と補助金を活用した起業実績も向上しているほか、商店街マップや休憩場所の設置など、まちの賑わいを創出する新たな取り組みも促進されています。マイナスイメージがある空き店舗を利活用できる空間的資源として捉えることでまちづくりの可能性は無限に広がります。

個性あふれる店舗が増えることで地域や商店街の魅力が増し、さらに多くの人々がまちが賑わうようこれからも取組んでまいります。

やまなし

自治の風

Yamanashi JICHI no KAZE
Vol.57 March.2025

Contents

Yamanashi JICHI no KAZE Vol.57 March.2025

- まち自慢 韮崎市
- 02 市町村長リレー 大月市
小菅村
- 06 苦言提言 若者の自己実現から始める地域課題解決・地域活性化の可能性
トップファンやまなし 代表 高村 大夢
- 07 特集「全国過疎問題シンポジウム2024 in やまなし」
- 08 特集1 山梨県 全体会及び交流会の概要
- 12 特集2 山梨市 過疎地域持続的発展優良事例発表会及び現地視察
- 14 特集3 北杜市 過疎地域持続的発展優良事例発表会及び現地視察
- 16 特集4 身延町 特産あけぼの大豆6次産業化事業取組紹介及び現地視察
- 18 特集5 小菅村 ドローン配送事業取組紹介
- 19 特集6 丹波山村 地方創生推進交付金活用事例及び移住・定住促進事業取組紹介
- 20 地域シンクタンク
- 22 市町村の元気印
- 24 地域おこし協力隊の活動
- 26 講演録
- 33 自治 Q & A
- 36 がんばっていま～す。
- 38 はつらつ!!市町村職員
- 40 市町村振興協会たより
- 時の人
- 編集後記



表紙写真 塩山桃源郷

甲州市塩山地区は、県下有数の桃とスモモの生産地であり、山の斜面に沿ってひな壇のように畑が広がっており、4月上旬から中旬にかけては濃いピンクの桃の花と白いスモモの花が一斉に咲き乱れ、桃源郷の名にふさわしい美しい風景を楽しむことができます。

【甲州市提供】

本年度、市制施行70周年 こどもたちを

「未来への宝もの」と考えて

小林 信保

大月市長



70周年記念ポスター

本市は、昭和29年に3町5村が合併し、山梨県で6番目の市として誕生しました。今年度で市制施行70周年を迎え、70周年を記念した「こどもたちが夢を持てるようなイベント」を計画して、これからの本市を担っていくこどもたちを「未来への宝もの」と考え、こどもたちが夢を持

てるような体験を市民とともに開催しております。

一日限りのゲームのテーマパーク「大月ゲームサミット2024」、「ヴァンフォーレとサッカーで遊ぼう」サッカー教室や、「楽しく学ぼうみらいのヒーローたち」野球教室など様々なイベントを企画しまし

た。ユーチューバー、野球やサッカーの元プロ選手を招き、こどもたちと交流をして、こどもたちが楽しく学び、夢を持てるようなイベントを開催いたしました。

希望のもてる未来へ

令和6年3月に「大月市第8次総合計画」を策定しました。計画期間を令和6年度（2024年）から令和17年度（2035年）までの12年間としました。

基本計画を前期、中期、後期と4年間ずつとして、市を取り巻く社会経済状況の変化に即応できるようにしつつ、基本理念を「信頼と協働のまちづくり」、将来像についても「ひとと自然をいかし、希望のもてる未来へみんな実現していくまち 大月」として、持続可能なまちを未来に継承していくように、将来像の実現に向けた八つの基本方針（政策）を決めて、重点的に取り組む事項を「心地よいコミュニティが育まれるまち」、「持続可能な産業が育つまち」、「安心してこどもを産み、子育てに喜びを



小林 信保（大月市長）

PROFILE 昭和40年8月24日生（59歳）
大月市大月三丁目在住
昭和63年 3月 法政大学卒業
昭和63年 4月 興国ハウジング株式会社入社
平成 2年 6月 水戸ベニヤ商会入社
平成23年 7月～大月市議会議員
令和 元年 8月～大月市長

実感できるまち」としました。

また、本市ではSDGsに関する取り組みにも力を入れています。「第8次総合計画」において定めている方向性は、基本計画の各施策を推進することで国際社会全体の開発目標であるSDGsの目指す17の目標とスケールは異なるものの方向性は同様であることから、施策を推進することで、目標達成に向けても資するものとなります。



特命推進課の設置

二期目となる今期に、就任当初から構想をしていました「特命推進課」を令和6年10月1日付で設けました。市長の直轄組織として、これまで課を跨いでいた業務を専門的に担い、行政課題の早期解決を目指していきます。特に、少子化の影響で統廃合により使われなくなった学校跡地の活用や市内への企業誘致、庁内でのDXの推進による業務の効率化や市民サービスの向上

を担います。また、公約に掲げている持続可能な「道の駅」の設置の検討や用地の選定も進めていきたいと考えています。

eスポーツの聖地を目指して

「大月をeスポーツの聖地に」をモットーに、若男女問わず全世代の市民に向けてeスポーツに取り組みを進めています。昨年2月に本市でeスポーツの推進を図る団体である「大月eスポーツクラブ」と市内のeスポーツ関連の事業者である「Radical Pop Gaming」と三者協定を締結して、交流人口の拡大、賑わいづくりの創出や健康増進を推進しています。



大月ゲームサミット

今年度は毎月2回、eスポーツ大会を大月市内で開催して、市内でのeスポーツの周知に努めました。大月市制70周年記念事業では、記念式典のあとにeスポーツ大会の成績優秀者を招待し、式典参列者の前で活動報告を行いました。

また、9月にはeスポーツと市内の企業PRを掛け合わせたイベントである「大月ゲームサミット2024」を開催しました。若年層を中心に多くの方に参加していただき、人気ユーチューバーや声優を招き、同時配信したユーチューブも2万4千回視聴されるなど大いに盛り上がりを見せました。

今後も、eスポーツを活用した地域活性化を目指して、様々な取り組みを推進して、「大月をeスポーツの聖地に」の実現を目指していきます。

おわりに

本市では急速な少子・高齢化による人口減少が今まで以上に加速しています。本年度の出生者数は50人を下回るという予測が出ており、更なる少子・高齢化が見込まれ、人口減少が更に加速度を増して進んでいくと思われています。その中で、これからは「子ども」という存在がより一層重要になってきます。大月市を担っていくことも私たちを「未来への宝もの」という考えに基づき、「心地よいコミュニティが育まれるまち」、「持続可能な産業が育つまち」、「安心して子どもを産み、子育てに喜びを実感できるまち」の3つの柱を軸に、希望をもてる未来の実現を目指して、全力で市政運営に取り組みしていきます。



官民連携による

地域の魅力づくりを目指して

船木 直美 小菅村長

小菅村について

小菅村は多摩川の最上流部にある小さな村です。人口は2024年10月末現在で619人、高齢化率48%、森林が総面積の95%を占め、また、約3割にあたる1,630ha東京都の水源かん養林になって、都心から80km圏内にありながら、ミズナラやブナなどの原生林、大型哺乳類や



小菅村全景

様々な野鳥、昆虫から野の花まで、豊かな自然が残っている地域です。近年、積極的な地方創生関連の取り組みにより飛躍的に知名度が向上した当村ですが、この転換期における大きな契機の1つが平成26年の松姫トンネルの開通でした。交通アクセスが劇的に改善したことで、さまざまな場面で大きな影響が生まれ、地域の連携強化はもとより、通勤・通学や通院などの利便性向上、大月地域や富士北麓地域と連携した観光振興、災害時や緊急時における村民の不安解消など、日常生活に大きな変化をもたらし、当村の可能性が拡大しました。

「多摩源流」へのこだわり

小菅村は多摩川と相模川の源流部にあります。そのため、昭和62年から「多摩源流」をキーワードとして村づくりを行なっています。きれいな水を守るための下水道の整備や、ハイキングコースの整備、宿泊施設の整備などを行ってきました。毎年5月4日に開催される「多摩源流まつり」はその



船木 直美 (小菅村長)

PROFILE 昭和32年7月3日生(67歳)
昭和52年4月 小菅村役場入庁
平成24年6月 小菅村長就任(現在4期目)

小菅村で生まれ育ち、小菅村役場職員として33年間勤務したのち、平成24年に小菅村長に就任。全国31の市町村で構成される「全国源流の郷協議会」の会長も務める。

象徴的なイベントで、毎年1万人以上のお客さんが村を訪れます。平成13年には源流の村づくりを進めるシンクタンクとして、「多摩川源流研究所」を設立し、源流域の自然・歴史・文化の調査研究、多摩川流域との交流事業や源流域からの情報発信に力を入れてきました。平成22年には「NPO法人多摩源流こすげ」が設立され、特産物の販売促進や源流ならではのツアーの開催などに取り組んでいます。

「官民連携」による村づくり

人口600名余の典型的な中山間地である当村にとって、厳しい財政状況や人口減少、公共施設の老朽化などに適切に対応しながら、活気に溢れる地域経済を実現していくことは、喫緊の課題であります。今後の地域経済の持続的な発展に向けて、当村では包括連携協定の締結や指定管理者制度等の手法を活用した「官民連携」による村づくりに積極的に取り組んでいます。

村営の主要3施設の連携

当村の主要観光施設である小菅の湯、道の駅こすげ、フォレストアドベンチャーこすげの3施設を統合し経営を一本化するため、100%村出資の株式会社「源」が設立されました。3つの事業の経営がそれまではばらばらだったので、各施設が連携することで、来訪者により楽しんでいただくことができる取り組みが展開できるようになりました。源では、観光分野を中心に、村内のヒト・モノを活かした産業の振興を目指しており、小菅村の資源を活かしたイベントやツアーの企画、小菅村人ポイントカードの発行やこすげ村情報サイト「こすげえー」の運営などソフト面から小菅村の活性化に関わるDMOの中心的な役割を担っています。



小菅の湯



道の駅こすげ 外観

分散型古民家ホテル「NIPPONIA小菅源流の村」のオープン

当村の美しい自然と文化を後世に残していくため、また過疎化と空き家の課題解決

と観光資源を生かせるモデルとして、地域全体を1つの宿に見立てる分散型古民家ホテル「NIPPONIA小菅源流の村」が2019年8月にオープンしました。観光客や移住者が増えていく一方で、高齢化に伴う後継者不足等により、村内の旅館や民宿などの宿泊施設は年々減少しています。そんな状況の中、道の駅や温泉に立ち寄ってもらうだけでなく、観光客に小菅村の魅力をもっと体験・体感してもらおうため、また村内に100件以上ある空き家の有効活用に向けた起爆剤として、2年の構想期間を経てホテルの運営母体となる「株式会社EDGE」が誕生しました。



NIPPONIA小菅源流の村 外観

ドローン配送導入による地域活性化へ

当村はいわゆる限界集落であり、過疎化及びそれに起因する利便性の悪化が深刻です。村内の商店は2店舗しかなく、最寄りのスーパーまで車で片道約40分かかります。ここに2024年問題が追い打ちをかけており、小菅村の物流は日用品や医薬品・食品などの多岐にわたって重要な問題となっています。こうした状況を鑑み、

2020年11月にドローンの研究開発を行う株式会社エアロネクストと連携協定を締結し、ドローン配送事業の実現化及びドローン配送導入による



エアロネクスト田路社長と配送ドローン

地域活性化に向けた取り組みをスタートさせました。小菅村への荷物を物流各社共同でまとめて運び、村内に新しく設置した「ドローンデポ[®]」に集約してから、村内にある8つの集落へ、陸路、ドローン配送、などさまざまな方法を組み合わせることで、「物流の効率化」と「地域住民の生活の質」、双方の向上を図るといった新たな物流の仕組みの実装が進んでいるところです。

さらなる発展に向けて

近年は様々なご縁をいただき、小菅村を拠点・フィールドとして活動する民間事業者が増えてきています。こうした企業の活躍は村の観光振興だけではなく、県内事業者や村内事業者との連携を通じた地域ブランドの強化や商工振興、ひいては経済の活性化に大いに資するものであると考えています。あらゆる地域課題への対応にも期待が高まっていることから、村としても積極的に支援・連携を図っていきたいと考えています。

若者の自己実現から始める地域課題解決・地域活性化の可能性

私 は山梨県山中湖村出身の25歳で、高校まで山梨で過ごし、その後、東京の大学に進学し、卒業後は甲府市で暮らしながら、リモートワークで東京都内のITベンチャー企業に勤務しています。主に非営利団体の資金調達支援を行う傍ら、大学時代に立ち上げた任意団体「トップファンやまなし」の代表としても活動しています。高校生の頃までは「東京に行きたい」という気持ちが強かったものの、実際に東京での生活を経験し、満員電車や住環境の狭さにストレスを感じました。その一方で、山梨の自然や人の温かさ、生活のしやすさを改めて実感し、「山梨と関わり続けたい」と強く思うようになりました。その気持ちから「若者だからこそできる地域への貢献」を模索し、2020年に学生団体「トップファンやまなし」を立ち上げました。現在は任意団体として、高校生から若手社会人まで約80名が所属し、地域活性化と自己実現をテーマに活動しています。

私たちの活動の根底には、「地域課題の解決を通じて、若者自身がやりたいことを実現する」というコンセプトがあります。例えば、環境問題に取り組む団体が定期的なゴミ拾い活動を行うことは社会的に大変意義がありますが、関心が薄い若者にとってはハード

苦言 提言

Kugen Teigen

高村 大夢

Hiromu Takamura

トップファンやまなし
代表



ルが高く感じられることもあります。

そこで、私たちは、参加者の特技や関心を最大限に生かし、地域課題にアプローチする形を取っています。例えば、動画制作が得意なメンバーが環境問題を啓発する動画を制作するような形で関わる、といった方法が考えられます。実際の活動例として、音楽が好きなメンバーは水素エネルギーを利用した音楽ライブを企画し、山梨の水素技術をPRしました。また、自分の意見を発信することが得意なメンバーは、地域の魅力や課題をテーマにしたローカルラジオ番組やYouTube番組を企画・運営しています。このように、①若者の「やりたい」を尊重しながら、②地域課題の解決を目指す活動は、参加者が「地域を自分ごと」として捉える「きっかけ」となっています。

現在、地方では人口減少や高齢化が進み、労働力不足やコミュニティの衰退が深刻な問題となっています。教育や福祉サービスの縮小、共助機能の低下など、持続可能な社会の構築が難しい状況にあります。一方で、社会課題は複雑化・多様化しており、政府や既存NPOのリソースには限りがあるため、新たな視点や方法で課題解決に挑む人材の育成が求められています。

こうした中で、若者が地域を「挑戦するフィールド」として捉え、自身の成長と地域課題解決を両立させる

取り組みは非常に有効です。「好きなこと」「得意なこと」を地域課題解決の手段として活用することで、これまで地域活動に関心が薄かった若者にも参画の機会を提供できます。

当初は「自分のやりたいことをやりたい」という気持ちからスタートした取り組みでしたが、振り返ると「地域で行動する若者を増やす」ことが私たちの活動の大きな意義だと感じています。もちろん、「若者が好きなことをやるだけでは課題解決には非効率だ」との指摘を受けることもあります。しかし、私は、まずは地域を「自分ごと」として捉え、行動を起こすスタートラインに立つことが重要だと考えています。その一歩が、次のステップとして課題解決に向けた効率的な取り組みに繋がると信じています。

私たちは今後も「若者が地域で自分らしく挑戦できる場」を広げ、地域課題の解決と若者の成長を両立させる活動を展開していきたいと考えています。そのためには、自治体職員の皆様との連携やサポートが不可欠です。具体的には、活動への情報提供や、若者が参加しやすい地域のフィールドづくりにご協力いただければ幸いです。

若者の自己実現が、地域の未来を支える力になります。山梨が、若者にとって「挑戦しやすい場所」となることで、地域全体の活性化に繋がると信じています。